



「ペナンに行ってください。事情はご存知ではないかと」

横浜新都市センタービルの完成後暫くして、横浜市都市計画局の総務部長が突然訪ねてきた。

「何も知りません。ペナンとは何ですか」

出向で 2 年程前に市役所を離れ、当時、日本で 2 番目に大きいビルの突貫工事の現場で連日夜遅くまで働き、仕事を無事に仕上げた後も、管理業務と横浜市の海外研修などが続いて、市役所の中の様子は知らなかった。

「横浜市とマレーシアのペナン市が、技術職員の交流事業というのを始めることになり、最初の派遣職員としてペナン市に行っていただきたい。期間は 3 か月ですが、詳しいことは担当の係長に聞いてください」

ペナンはどこかも知らなかったし、何をするのかも分からないので、まずは情報収集から始めた。

この交流事業は、JICA の活動でマレーシアのペナン市に派遣された横浜市の職員が「ペナン市の街づくりにアーバンデザインの考え方を取り入れられないか」いうことから始まったようだ。

ペナン市では、ちょうど「Structure Plan」という日本の地方自治体の総合計画に当たるものを作成中で、それに何か反映できるような提案が出来ればという趣旨だったが、街の様子をはじめ、詳しいことは現地に行かないと分からなかった。

「Structure Plan」の計画作成スケジュールの関係で、1986 年 11 月 25 日から 1987 年 2 月 24 日までの 3 か月間、ペナン市役所に派遣されることになった。



コムター

ペナン市役所は、ジョージタウンという中心市街地に新しく建設された「コムター」と呼ばれている円筒形の 65 階建ての建物の中にあった。

「コムター」は、伝統的な低層の建物で形成される街並みの中に、一棟だけ唐突に飛び出していた。



タン・テンシュウ課長と筆者

ペナン市役所のカウンターパートは、「Structure Plan」計画作成チームの責任者、タン・テンシュウ課長だった。

そして、計画作成チームは「コムター」ではなく、海沿いのエスプラネードと呼ばれている公園に面している、旧市庁舎「タウンホール」で業務を行っていた。



タウンホール

一階に、タン課長の部屋、チームメンバー6人（中国系3人、マレー系2人、インド系1人）の部屋と、マレー系とインド系のスタッフ10数人が働いている広い部屋などがあった。

メンバーの部屋の奥にある部屋が、自分に用意された。

二階では、ジャイカから派遣された日本のコンサルタントチームが、現地の大学生を使って、交通計画の提案のための作業をしていた。



スタッフルーム

滞在中の宿舎は、「タウンホール」とは800m程の距離にある、同じ海沿いにある「E&O Hotel」を、ペナン市が手配してくれていた。

サマセットモームやチャップリンも宿泊したという、ペナンでは最も格式の高いこのホテルは、4階建ての歴史的建造物で、古めかしいエレベーターの蛇腹のスチールシャッターを、エレベーターボーイが開け閉めしてくれた。



作業部屋の筆者

しかし、用意してくれた部屋は一階の道路側にあり、ガラリ窓が締め切りの昼でも暗い部屋だった。

ここで3カ月過ごすのはきついと思い、外が見える部屋に、費用のプラス分を負担することで替えてもらった。



E&O Hotel

今度は、二階のツインのキングサイズベッドのある、オーシャンビューの広い部屋だった。

洗面所が10畳程もあるが、殺風景な白いタイル張りで、バスタブ、洗面器、便器がばらばらに配置され、使い難かった。



E&O Hotelの部屋

この部屋に一月ほど滞在していたが、窓からは水面だけが見え、たまに船は通るのだが、毎日見ていると退屈になったし、費用ももったいなかった。

再度、タン課長に相談した。



中央右高層 City Bayview その左 E&O



City Bayview Hotel からの眺め



ホッカーストールの食事



モーニングミーティング



スタッフルーム

そして負担がなくて済む、直ぐ近くのシティホテル「City Bayview Hotel」の、街が見える部屋に替えてもらった。

窓から「コムター」とジョージタウンの歴史的な街並みが見え、一人で滞在するには手頃だった。

朝食は、一階にある中華レストランのテラス席で中華粥を食べ、夕食は、最上階にある和食レストランと洋食レストランを交互に利用した。

昼食は、職場近くのホッカーストール（屋台）などに行ったが、安くて美味しい屋台料理がすっかり気に入ってしまった。

移動に必要なレンタカーを借りたが、通勤は徒歩にした。

市役所は朝 8 時に始まり、午後 4 時に終わった。

毎朝 10 になると、チームのメンバーが行うモーニングミーティングに参加した。

タウンホールの道路の反対側にあるホッカーストールに行き、木陰のテーブルを囲んで、それぞれに軽食や飲物などを取りながら打ち合わせを行った。

自分は、ホテルで軽い朝食を済ませていたが、一杯 50 円ほどのヌードルが美味しく、小腹を満たすのに丁度よかった。

メンバーとのコミュニケーションが図れるし、このミーティングが楽しい日課の一つになった。

赤道に近い位置にあるため、毎日変わることなく朝 7 時頃には明るくなり、夕方 7 時頃には暗くなった。

役所が終わる午後 4 時は明るかったが、時間が来ると皆一斉に帰るようで、気がつくともう誰もいなかった。

日が暮れるまで 3 時間もあり、明るい時間に帰ってどうするのかと思ったが、メンバーの一人は、一度帰宅してシャワーを浴びて着替え、スポーツクラブに行くのだと言っていた。

他のメンバーも、仕事から解放された自分の時間を活用している様子で、余裕のある生活を羨ましくも思った。

一方、タウンホールの二階に陣取っているジャイカチームは、連日夜遅くまで作業をしていた。

タン課長は、彼らは毎日夜遅くまで、何をしているのだろうと不思議がっていた。



タン ファミリーとマイ ファミリー

時間がゆっくり流れるペナンの生活と、忙しく生活をする日本との違いは、一体どうしてだろうと考えさせられた。

ペナンにいた間ぐらいはペナン流の生活を送れればと思ったが、滞在期間中に目標としている作業を考えると、現実的にはとても無理だった。

明るいうちは一人居残って作業をしていたが、毎日、夕暮れ時になると窓の外から「ピーヨ」と鳴く鳥の声がした。

姿も名前も分からなかったが、日本では聞いたことのない憂いのある侘しさを誘う声で、それを合図に仕事を切り上げた。

年末に、家族が 5 日間ほどやって来た。

子供たちはホテルのプールで大喜びし、市内観光やタン課長の家族と食事や植物園へ行ったりして、大晦日に帰っていった。



チャイニーズニューイヤーの行事

クリスマスと正月は一人で過ごした。

暑い国でのクリスマスは、何か不思議な感じもしたが、ホテルにはそれなりの飾りつけがあったり、レストランがどこも満員だったりした。



ラマダン明けの行事

正月は、ペナンは中国人が多いのでチャイニーズニューイヤーが中心のようで、元旦に役所が休みになったくらいで、特に正月気分という雰囲気は感じられなかった。

チャイニーズニューイヤーの祭りと、イスラム教のラマダン明けの祭りの行事で、街が賑わった様子も見ることが出来た。



結婚式風景

スタッフの一人、インド系の女性タイピストが結婚するので、タン課長が誘ってくれ、メンバーと結婚式に出かけた。

寺院での結婚式では、頭にハンカチを載せて床に座って参列し、外に張られた大きなテントの中でふるまわれていたカレーをご馳走になった。

日本から持参した、鶴の絵が描かれた磁器の器が一つ残っていたので、タン課長に相談してお祝いの品にした。



結婚式のお祝いにチーム全員で参加

暫くして、タイピストに新婚生活について尋ねたところ「二人の生活は楽しいが、姑との関係が大変だ」と言っていた。

万国共通の問題なのだと改めて思った。